高津区おはなしアーカイブ

●志田　袈裟義（しだ　けさよし）さん

昭和８年生まれ　８３歳
川崎市高津区上作延在住

◆ご自身について：お名前の由来や家族構成は？

生まれた時に、臍の緒が袈裟懸けのようになっていたので、名前が袈裟義になりました。兄妹の中でも私の名前だけがこんな難しい字になっていてね。「けさがけのけさです」と言っても字をなかなか書いてもらえない（笑）。

生まれたのは山梨。親は和菓子屋を営んでいまして、６人兄弟の次男坊です。男が３人、女が３人。上から女・男・女・男・女・男っていう。

川崎には昭和２９年に山梨から移り住みました。川崎に来た当初は小向に住んでいましたが、昭和３６年に市営住宅を申込み、ここ上作に引っ越して来てからはずっと住んでいます。

就職したのはＮＴＴ（当時は電信電話公社）でしたが、山梨では人員の空きがなく、川崎に行ったら採用してもらえるからといわれ、希望を出したところ、土曜日になって「来週の月曜日に川崎に行け」って聞いて、慌ただしく引っ越してきました。

昭和２９年から寮に入り、昭和３３年に結婚。嫁さんは同郷山梨の人で、兄貴のお嫁さんの近所に住んでいた娘さん。結婚５６年目になります。

◆川崎に来られてからは？

最初は会社の寮にいたので、出かけるのはほとんど川崎の市内でした。あと、寮にいた友達がラジオを組み立てていたので、秋葉原に部品を買いに行っていました。

寮は川崎球場のすぐ近く、５分もあれば行けるところでしたので、そこで開催される試合はほとんど観に行っていました。私自身もずっと野球をやっていて、会社に入ってからも野球部に入り、キャッチャーをやっていました。

中原にいた時は庶務課長が香川県坂出高校の出身、ピッチャーとして全日本で選ばれた人が来てね、すごかったですよ。キャッチャーを一試合やると手が腫れていました。

当時はチームも強かったですよ。野球はずっと、３６年やったかな。小さい頃から野

球浸りで、ほかに趣味がないから（笑）。

◆上作延に来られてからは

引っ越してきた当初、この辺りはほとんど田んぼでね。川の向こうも田んぼで、ヘリコプターで農薬を散布していたこともありましたよ。護岸工事をやるまでは、この周辺もほとんど田んぼでした。あの頃、お店は本田青果店と、鮮魚店があったくらい。今はスーパーマーケットができたからなくなっちゃったけれど。

◆その当時の家族の様子は？

当時はまだ上作延小学校が建つ前でしたので、長女も、この辺りの子もみんな向丘小学校にバスで通学していました。上作延小学校ができてからはそちらに転入しました。

私が３６年にここに越してきた時は、夏になるとよく唸り声が聞こえてきたんです「うううう」って。その前に、ここに住んでいた方が引っ越しちゃったのはその唸り声のせいなのか、何かあったのかな？って。同じくらいの時間になると「うううう」って聞こえてきて。近所の人に聞いてみたら、それがね、食用蛙の声だって言うんです。声の正体が解るまでは皆ビクビクして、怖かったですよ（笑）。

◆周辺の様子は？

ここは自然に囲まれていましたね。引っ越してきた時は軽自動車を持ってきたのですが、当時は車を持っている方はあまりいなかったですね。農家はみんなリヤカーに作物積んで。この辺りはあまり坂がないですからね。

通勤するのは南武線。当時、私は武蔵溝ノ口駅を利用していて、津田山はあまり利用しなかったですね。バスはね、ボンネットバス。この辺りはまだ人口が少なかったですから、来れば乗れました。けっこう便はありました。そこの道路もここへ来た当時はボコボコの砂利道でした。

〈当時の市バス〉

平瀬川も昔は氾濫しましたね。当時は水門があって、そこに木が引っかかっちゃって、水が増えて床上までになったことがあ

りますね。人が亡くなるような大きな災害にはなりませんでしたが、あの頃はまだお便所もくみ取り式だったし、プロパンガスだったから。川の向こう側では床上まで浸水して、そうすると畳が上がるんです。プカプカ浮かんできちゃって大変。水門も三箇所あって木が流れ着いたりしていたけれど、全部とりましたからね。あそこの津田山のところもトンネルが２つに増えて流れるようになりました。

当時は、隣近所お互いに助け合って良かったですよ。今のように隣に誰が住んでいるのかも解らないというのではなかった。住んでいた家は、木造の平屋建ての二軒長屋。それが４２棟あったのかな、庭も結構あったしね、近所は皆顔なじみだし、留守にする時は一声掛けていた。

町内会はその当時からありました。
当時は、暮れに餅つきもしたかな。今はもうやっていないですけど。

〈写真とともに思い出を語る志田氏〉

町内会の活動について

町内会の祭りは年に１回７月に、公園でやります。最近は子どもが少なくなってきて、高齢者が多くなってきたけれど、近所の方に喜んでもらえればそれでいい。小規模ですけど屋台も出してね。ほとんど周辺の方が集まってきますよ。自分たちで、焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、おでん、氷、飲み物とか模擬店をやります。準備は大変ですけど喜んでもらえれば嬉しいですね。お手伝いしてくれっていえば、皆さん出てきてくれますし、４０～５０代の人が頑張ってくれます。

町内会の会長は今年で２年目。ブランクを入れてその前は８年やりました。それまではずっと副会長をやっていたので。実は、３５年前に越してきた時、すぐ副会長になったんですよ。前任者や地域のかたが皆さん協力してくれます。

◆５０年経って、町はどのように変わりましたか？

まず、地域から子ども、若い人が減ってきたね、それが一番かな。人との繋がりも個人情報保護法とかで、住人の顔が見えづらくなりました。

２年前に再び町会長になった時、子どもの乗物を公園に持ってきて、そのまま置いておいても良いよ、というと「不法投棄のガラクタがあるから処理して欲しい」という内容の投書や、無記名で「老人が町会長をやるなんてとんでもない」という投書もきました。

人のお役に立つことでしたら、何でもや

っていきますよ。そうすればまた何か返ってきます。文句言いながらもやっていれば、必ず返ってきますよ。

上作延に越してきた頃は、まだ地元の人とは挨拶をする程度でしたが、町内会の仕事をしていると、道で小さい子に会うと「志田さん、志田さん」って声をかけてくれる。「あ、公園のおじさんだ」、なんてね。

困っている人に頼まれたら何でもやらないとね。水漏れでも、蛍光灯が切れたとかでも、電気屋に頼めとか言わず、できることはやっちゃう。

町会の仕事をしていて良いのは、多くの方に会えること、これが一番いい。溝口に行っても、この辺りを歩いていても多くの人が顔を知っていてくれるし。この集会所も、料理や空手教室、ダンス、日本舞踊などにもどんどん利用してもらっています。申込みも多いですよ。ここは、スーパーもあるし郵便局も近くだし、バス停の前だから交通の便も良いし。

地域とのつながりをこれからも大切にしていきたいです。

〈会館入口に飾っている写真は志田さんが撮影された作品〉

（平成２７年１２月１７日取材）